

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 入選

World on the RICE!!

(原文)

島田 明日美 (17 歳)

埼玉県

筑波大学附属坂戸高等学校

10 年前の私へ。2020 年の私は受験のことやいつまで経っても彼氏ができないことへの焦りで頭がいっぱいで未来のことを考えている余裕なんてないでしょう。でもどうか今の学びは止めないでください。なぜなら 2030 年、27 歳になった私は今までの学びのおかげで幸せを感じることができているからです。

なにを隠そう、今この世は空前の米ブーム。米の消費量の減少が問題となり、食の欧米化とまで言われていたことはもう過去の事。今では世界中で米が食べられ、世界三大穀物の中でもトップに踊り出るくらいの人気を誇っています。なぜそんなことが起こっているのか。それには、私たち筑波大学附属坂戸高校の総合科の大活躍を語らないわけにはいきません。

大人になった私は大好きな農業の道に進みました。小学校の頃からの夢である日本一の米の開発に向けて動き出したのです。長年の研究と米作りを通して、高校で共に農業科として米作りを学んだ皆と一緒に新品種「ツクサカマイ」を開発しました。ツクサカマイは日本穀物協会の食味ランキングでコシヒカリですらとったことがない特 AA ランクを叩き出し日本を震撼させました。もちろん、この偉業は多くの農業機関から讃えられたたくさんの賞を受賞しました。でも大事なのはここから。私たちは得た賞金を使い高校で国際科だった皆と協力して発展途上国の稲を育てることができない国々にツクサカマイを寄付しました。日本一の米ですから、ツクサカマイはたくさんの国と人を笑顔にしました。ツクサカマイを広める活動は日本でも行いました。商業科の皆にも協力してもらい日本のテレビやスーパーでツクサカマイを広め米の消費量を増やそうとしたのです。しかし、事はそううまくいかず、ピザやタピオカなど派手な料理が目立つ世の中では、米にスポットライトはあたりませんでした。諦めようかと何度も考えていたその時、突如として米ブームは起こりました。日本の米はどんな食べ物にも合うという強みは寄付を行った海外の文化によく馴染み、人々の心を掴んだのです。この現象は海を越え、ついに 2030 年、日本にも米ブームがやってきました。

この米ブームは日本を大きく変えました。一つ目に様々なコシヨクの問題。米を食べることは粉ものばかりになってしまう「粉食」や、お釜で炊くことが多いことから個々で別々の食事をする「個食」を改善し、家族で食卓を囲む楽しみを教えてくださいました。二つ目は農業界。米ブームは農業の発展の起爆剤となり世界中で農業は発展しました。高齢化が心配された日本の農業でも、工業科の皆のおかげ

で体への負担が少ないスマート農業が開発され全国で取り入れられるようになりました。さらに、米ブームの到来から日本の和食は世界中で注目されました。欧米では「一汁三菜」の言葉が流行し、社会現象を引き起こしました。

米ブームは世界に影響を与え、地球全体を温め、「おいしさ」という「幸せ」を届けました。そしてそこには、農業だけじゃない多くの人の支えがあったことを忘れてはいけません。外国と日本を繋いだ国際科、消費者と生産者を繋いだ商業科、仕事をより良くするために多くの機械を開発してくれた工業科。総合学科の全ての学科が協力することで世界を動かすことができました。2020年の私は、普段日の目を見ることが少ない農業に学ぶ魅力を感じにくくなっているでしょう。でも、ツクサカマイが世界をおいしさで繋ぐことができたように、一見目立たない農業はこんなにも人を幸せにします。世界にはまだたくさん問題があります。貧困も戦争も完全にはなくなっていないけれど、私の大好きな米は地球全体を一つのお椀にのせることができました。だから胸を張って、これからも私の大好きな農業を学んでください。そして決して、毎日「いただきます」と「ごちそうさま」ができることはあたりまえではないことを忘れないで下さい。